## 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩 大町高等学校

## 秋山縦走决定前夜

10月の三連休(11日から13日)は合宿を組むには格好の日程だが、大町高校は初日に模試の計画があったため、初日は朝からの出発を諦め、午後出発、初日は猿倉から白馬尻、2日目に大雪渓から白馬に登った後三山の縦走、天狗に幕営、3日目に不帰を越えて八方を下山という縦走を計画した。「不帰」に行くということで、生徒たちもモチベーションを高めて期待していた。ところが、2週連続での台風の来襲が報道され、しかも19号は一時勢力が900hPAまで発達、猛烈な勢力のまま日本列島に近付いており、連日警戒が呼びかけられていた。

木曜日にミーティングを開いてまず天気図をとらせる。ところが、この日の気象通報は、最後に台風情報を繰り返し、その脅威は伝えてくれたが、基本等圧線を伝えることなく終了。自分で書いた天気図からどのように連体の天気を予測し、計画を検討させようとしていた小生の思惑は外れた。台風と低気圧、高気圧の位置からおおよその予測をさせ、気象庁の天気図をダウンロードしてそれと比べながら、どうするかをディスカッションさせた。・・・結果、「日本列島を覆う高気圧の勢力が強い土日は何とか天気は持つのではないか」「この時期は雪も考えられ(すでに先週白馬は初冠雪が望めた)、親も心配しているので無理はできない」「「万が一天候が悪化した場合でも対応が可能な場所で1泊2日に日程を変更して行えばできそうだ」ということになった。小生もその考えに同意、「最終的に行くか行かないかの判断は、10日金曜日放課後の食糧買い出しの直前とする」としながらも、基本的に「1泊2日で初日は、模試終了後の13時出発、白馬尻泊、翌日は白馬を目指すが、不帰は諦める」ということにした。早速計画書を教頭に提出、絶対に事故を起こさないでくださいと念を押された上で許可が下りた。因みに引率は小生とコーチとして県から認められている松田大さん。さらに部員の父君で白馬村の山岳ガイド・北ア北部遭対協所属の泉さんも同行してくれるという豪華?布陣。

## 秋山縦走(猿倉~白馬~栂池)

そんなわけで、台風の進路を睨みながら、11 日 12 時半部室に集合。頭上には青空が 広がり、北アルプスの峰には一片の雲もない。14 時半、猿倉で泉君のお父さんと合流。 3 時 10 分出発。既に今年度の営業を終了し、解体された白馬尻の小屋に着いたのは 16 時。他に誰もいない静かなテント場で、今日のメニューはキムチ鍋にごはん、〆のうど んも用意されるという豪華なもの。空には天の川が流れ、降るような星空。周囲を白馬 の山々に囲まれ、東には西岳、高妻を遠望しながら、まったりとした幕営生活。明日の 好天を祈りながら早々にシュラフに潜り込んだ。

12日、4時起床。東の空が赤みを増し、白馬の上には月がかかっている。5時半に撤収、出発。台風の影響は全く感じられない。予定通りの行動ができそうである。落石への備えのために、生徒たちにはヘルメットを装着させる。雪渓の融雪が進むこの時期は、

右岸に付けられた登山道を高巻きながら進んでいく。3 号雪渓のあたりで、一旦雪渓に 下りる。放射冷却の影響もあって、雪は堅い。スプーンカットを慎重に拾いながら、登 って行く。2号雪渓から上は左岸の夏道を進み、8:00小雪渓上部、避難小屋の下部で一 本取る。無風快晴、絶好の登山日和とは今日のような日のこと。願わくは今頭上を覆っ ている高気圧がもう少しこのまま勢力を保ち、台風の動きをブロックしてくれています ように・・・。9:05、今日が今年度の営業日最後とのことで、小屋仕舞いに忙しい村営 頂上宿舎着。ちょっとエネルギーを補給し、白馬館へ。こちらも小屋仕舞いと来るべき 台風への備えでてんてこ舞いの様子。2軒の山小屋で話し込んだこともあり、頂上へ到 着したのは10時。360度の展望は、最高で富士山から日本海まですべてが青空の下。槍・ 穂の右側の針ノ木の背後から噴煙が上がっているのがよくわかる。御嶽まではここから 直線距離でおよそ 100 km。こんなにもはっきりと煙があがっているのがわかるとは、ち ょっとびっくりであった。今日のこの天気の中で台風前の大捜索が行われているのだろ う。一人でも二人でもまだ安否確認のできていない方の確認が進むことを祈る。それに しても、雲一つない快晴で、近くは杓子から続く後立山の連峰、劔の尖塔といった名だ たる名峰はもちろん、遠く白山、佐渡、能登半島までも見渡せる天気。中止にしなくて よかった、そう思わずにはいられない。生徒たちの顔には疲れの色など微塵もない。4 時40分の最終のロープウェイには充分間に合いそうだ。ゆっくりと寛いで、10:30小蓮 華へと足を進める。

小蓮華の頂上に立つ錫杖は重さ 150 kg、数年前の崩落で金山沢側に少し転落したそうだが、今日同行している泉さんが同じ案内人仲間の松原さんと 3 分の 1 システムを使って、一緒に引っ張り上げたそうだ。そんな苦労話を聞くのも楽しい。泉さんには今回随所で様々な裏話や知らなかった白馬岳のエピソードなどを教えていただき、大変勉強になった。曰く、猿倉の以前の小屋のこと、ネブカッピラのピラが草付の尾根を意味する方言であること、戦後一年間だけ荷物をあげたウインチの残骸とその小屋跡の話、杓子の岩峰を天狗ビシということ、ネブカッピラの右の沢にある赤岩付近の土石流を防ぐための蛇籠の石詰めに環境省から現地の石以外使ってはいけない(現実にはそうとばかりはいかなかったようだが)という達しがあったとか・・・。他にも様々楽しい話が聞けた。やはり、餅は餅屋、地元のガイドはいろんなことをよく知っている。

12:40、大池山荘着。ここも営業は本日限り。来年も全校登山でお世話になる旨、一言 挨拶。大町高校というだけで、北アルプスの山小屋はどこでも丁寧に対応してくださる。 山岳部の存在はいうまでもなく、地元の高校としてこれまで連綿と続けてきた全校登山 の重みを感じる。天候は一日持ったが、台風前面の雲が押し寄せてきているのだろうか。 南の方から少しずつ雲が出てきて、少しずつ空を覆い始め、青空の範囲を狭め始めてき た。14:35、栂池ヒュッテに到着。よく来たと支配人の吉岡さんが生徒も含む全員に「お 茶でもどうぞ」と歓待してくれた。ソフトクリームをいただいた生徒たちは大感激。吉 岡さん曰く、「例年この連休は人が多く、今日のような中日のこの時間帯はロープウェイ 待ちの行列がヒュッテの前まで続くほど」とのことだったが、さすがに台風のニュース の影響だろう、「今日は人出も少ない」と切ながっておられた。さもありなんである。し かし、我々にとっては好都合、待ち時間もなくロープウェイとゴンドラを乗り継いで、 15時30分には栂池に到着。小谷村に住むY君のお父上の車で猿倉まで運んでいただき、 17時30分学校へ無事帰着。中止は直前でもできる、長野県故の恩恵にあずかった。